

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：34416

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13603

研究課題名（和文）争点空間の認知における歪みをもたらす政治的帰結と歪みの是正に関する研究

研究課題名（英文）A Study of Political Consequences Caused by Distorted Issue Space and Correcting the Distortion

研究代表者

SONG JAEHYUN (SONG, JAEHYUN)

関西大学・総合情報学部・准教授

研究者番号：70822617

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題では（政治的）情報が選好および選択に与える影響を実証的アプローチを通じて明らかにしてきた。分析手法は観察データに基づく定量的手法のみならず、実験アプローチや統計的因果推論の手法を用い、分析対象も日本だけでなく、アメリカ、メキシコ、韓国など様々なフィールドで研究を行い、国内外のジャーナル・学会で発表した。研究の結果、有権者の選好および選択は情報の有無、内容によって変化だけでなく、変化の程度もまた有権者の社会経済的屬性、政治的態度、地理的要因などによって不均一であることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題では（政治的）情報が選好および選択に与える影響を実証的アプローチを通じて明らかにしてきた。たとえば、フェイクニュースが有権者の選好に与える影響は多くの研究で指摘されてきたが、その是正をもたらす「後悔」は注目されなかった。また、政策の情報がその政策に対する支持を高めたり、国家間協力の支持態度にも影響を与えたりすることを明らかにしてきた。これらの研究成果は近年の問題視されているフェイクニュース、（感情的、イデオロギー的）分極化、国家間対立が「情報」によって改善され得ることを示唆する。

研究成果の概要（英文）：In this research project, we have demonstrated through an empirical approach the impact of (political) information on voters' preferences and choices. Our analytical methods include not only quantitative methods based on observational data, but also experimental approaches and statistical causal inference. We have conducted studies not only in Japan but also in various fields such as the United States, Mexico, and South Korea, and have presented our findings at domestic and international journals and conferences. The results of the research have revealed that the preferences and choices of voters are not only influenced by the presence or absence of information and its content, but also vary in degree depending on the socio-economic status, political attitudes, geographical factors, and other characteristics of the voters.

研究分野：政治学

キーワード：選挙研究 争点投票 政治的情報

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究開始当初は、政党イデオロギーの分極化、極端なイデオロギーを書かせる政党の登場、中道志向の第三政党の登場といった近年の政治的課題を有権者の認知レベルにおける争点空間の歪みを用いた説明を試みることであった。有権者の認知レベルにおける争点空間の伸縮性を考慮した場合、イデオロギー空間上の両端に位置する政党が「一定の」勢力を確保することができ、その反動として中道志向の第三政党の登場も促されると考えられたからである。最終的には政治的情報の呈示方法によってその歪みを是正する方法を提案することが目的であった。

しかし、近年、政治的情報の話題はフェイクニュースや陰謀論などである。しかし、こういった情報は分極化とも密接な関連があるため、本研究課題との相性も良いと考えられる。したがって、架空の情報を含む様々な政治的情報が有権者の選好、信念、態度、選択に与える影響に焦点を当て、研究を遂行してきた。

### 2. 研究の目的

本研究課題の目的は(政治的)情報が有権者の選好および選択に与える影響を明らかにすることである。人々は日常生活の中で様々な情報を接し、その接触のきっかけは偶発的なものもあれば、選択的なものもある。しかし政治的情報の場合、選択的接触が比較的多いと考えられる。自分にとって都合の良い情報のみを求めると自分の選好や信念は徐々に強化されていくだろう。しかし、自分の選好や信念と一致しない情報に接触した有権者の選好・信念はどうだろうか。本研究課題では実験アプローチを採用することで選択的接触の可能性を排除し、(政治的)情報が有権者の選好、信念、選択に与える影響を明らかにする。

### 3. 研究の方法

本研究課題における成果は全て定量的分析方法論に基づくアプローチで行われた。具体的には世論調査等の観察データを用いた伝統的分析と(サーベイ)実験データを用いた因果推論に大別でき、主に後者のアプローチを用いた。本研究課題は「情報と選好 / 情報と選択」に焦点を当てるため、情報という「処置・原因」が選好/選択という「結果」に与える影響の推論、つまり因果推論が中心となる。観察データを用いた因果推論は自己選択バイアス等の内生性が存在するため、厳密な因果推論のためには様々な仮定に基づく統計的因果推論手法を採用する必要がある。また、観察データでは本研究課題が注目する「情報」という変数が不在なケースも多い。したがって、本研究では独自のサーベイ(世論調査)を行うだけでなく、実験をサーベイに埋め込む形(サーベイ実験)で、情報が有権者の選好や選択に与える影響の因果推論を試みた。

### 4. 研究成果

本研究課題の研究成果は14件の学術論文、21件の学会発表、1件の書籍である。以下は主要研究成果の概要である(学術論文のみ)。

- 宋財法・矢内勇生. 2019. 「え！そっちに入れるんですか？ 伸縮する政策空間における有権者の投票行動モデリング」 豊田秀樹(編著) 『たのしいベイズモデリング2』北大路

書房. pp. 105-117.

- 本研究の目的は、2つの争点投票モデルである近接性モデルと方向性モデルを統合することである。これらのモデルの優劣に関する論争は現在も続いており、この論争を解決するために、新しいモデルである「伸縮近接性モデル」を提案した。このモデルは、既存の統一モデルとは異なり、有権者の認識レベルでの争点空間を再構築することで、両モデルの統合を試みた。本書では伸縮近接性モデルの説明のみならず、パラメーター推定のためのコードも解説した。
- SONG Jaehyun・秦正樹. 2020. 「オンライン・サーベイ実験の方法: 理論編」『理論と方法』35 (1): 92-108. / 秦正樹・SONG Jaehyun. 2020. 「オンライン・サーベイ実験の方法: 実践編」『理論と方法』35 (1): 109-127.
  - 本稿では近年、関心が高まっている社会科学における実験アプローチを解説したものである。社会(の構成員である人間)を対象とする社会科学には原因と結果の間に内生性が常に存在し、その対処法として共変量調整や自然(疑似)実験などの手法が提案されていき。しかし、未だ因果推論の最良の手法として称されているのは実験アプローチであり、実験を容易にするインフラが整備されることによって急速に拡大してきた。本稿は実験の中でも、フレーミング実験、リスト実験、コンジョイント実験それぞれに対し、手法の概要、実施・推定方法、注意点について解説した。また、サーベイ実験を遂行する際に注意点なども解説した。
- Uji, Azusa, Aseem Prakash, and Jaehyun Song. 2021. "Does the "NIMBY syndrome" Undermine Public Support for Nuclear Power in Japan?" *Energy Policy*, 148 (A): 111944.
  - 原子力エネルギーの脱炭素化政策としての主要な障害は、原子炉からの放射線漏れのリスクに対する一般市民の認識である。特にNIMBY (Not In My Back Yard) は、個人が自分の地域に原子炉を反対するのは、そのリスクを過大評価しているためだと示唆している。本研究では日本人有権者を対象にサーベイ実験を実施し、健康、経済、気候変動の利点を強調した際、原発再稼働に対する有権者の支持にNIMBYがどのように影響するかを分析した。本研究では「NIMBY効果」と「福島効果」の2つの仮説を検証したものの、いずれの仮説も支持されなかった。むしろ、低所得者層では、原子力エネルギーの地元の大気汚染が少ないことに関する情報を提供された場合に「逆」NIMBYの支持が見られました。この結果は、原子力エネルギーへの支持が集団によって異なり、地元の利益と費用がどのように提示されるかに依存することを示唆している。
- Beiser-McGrath, Liam F., Thomas Bernauer, Jaehyun Song, and Azusa Uji. 2021. "Understanding Public Support for Domestic Contributions to Global Collective Goods: Results from a survey experiment on carbon taxation in Japan." *Climatic Change*, 166:51.
  - 本研究は他国の政策に関する情報が、どのように国内の政治的支持に影響を与えるかを明らかにすることが目的である。その中で、地球温暖化を緩和するための最も重要でありながら議論的となっている政策手段の1つである炭素税に焦点を当て、日本人の有権者を対象としたサーベイ実験(フレーム実験+コンジョイント実験)を行った。分析の結果、他国の政策に関する情報が国内の炭素課税への支持とその制度案に関する選好両方に影響を与えるが明らかになった。
- Iida, Takeshi, Jaehyun Song, José Luis Estrada, and Yuriko Takahashi. 2022. "Fake

News and its Electoral Consequences: A Survey Experiment on Mexico,” *AI & Society: Knowledge, Culture and Communication*.

- 本研究ではフェイクニュースが選挙結果に与える影響を分析した。過去の研究では、フェイクニュースに晒されたことと投票行動の関連が見られましたが、これらは観察データに基づく研究であり、その関連が本当にフェイクニュースによって引き起こされたかまでは示されていなかった。そこで、本研究はメキシコの2018年大統領選挙を対象に、フェイクニュースの訂正が投票後の後悔を引き起こすかを実験アプローチで検証した。メキシコの2018年大統領選挙の際、特定の候補者に対する国家レベルの偽情報が流れ、その情報が偽情報であったことは大統領選挙後に司法部の判決によって確定されたものの、その判決はあまり知られていなかった。分析の結果、判決の情報が呈示されたグループの場合、内的政治的有効性感覚が低い被験者において投票後悔の度合いが高まることが明らかになった。
- Uji, Azusa, Sijeong Lim, and Jaehyun Song. 2023. “From Plastic to Peace: Overcoming Public Antipathy through Environmental Cooperation,” *Journal of Peace Research*. 61 (2): 279-293.
  - 国際社会において、ライバル国への市民の不信感は協力の障害となり得る。本研究では、日韓の対立を対象に、環境問題における協力の情報が市民の非環境（安全保障、経済など）協力の支持を高めることを、サーベイ実験を用いて示した。具体的には、海洋プラスチック汚染への協力情報が、経済や安全保障の分野での協力意欲に影響を与えることを発見した。ただし、日本と韓国の反応には違いがあり、韓国では協力に対する受容度が高まる一方、日本では非協力の情報に強い反応が見られ、協力意欲が低下することが明らかになった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 10件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 Uji Azusa, Song Jaehyun, Dolsak Nives, Prakash Aseem	4. 巻 18
2. 論文標題 Comparing public support for nuclear and wind energy in Washington State	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0284208
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0284208	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Uji Azusa, Song Jaehyun, Dolsak Nives, Prakash Aseem	4. 巻 2
2. 論文標題 Does partisanship shape public support for suspending U.S. federal gas tax? A survey experiment	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 PLOS Climate	6. 最初と最後の頁 e0000163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pclm.0000163	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 宋 財ヒョン	4. 巻 58
2. 論文標題 行財政改革に対する支持態度と共同体への負担	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 情報研究	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宋 財ヒョン	4. 巻 -
2. 論文標題 投票率40%という「防衛ライン」と投票率86% という「理想」 : 義務投票制導入を巡る有権者の態度	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本政治と自助・共助・公助 (研究双書 ; 第179冊)	6. 最初と最後の頁 45-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32286/0002001070	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iida Takeshi、Song Jaehyun、Estrada Jose Luis、Takahashi Yuriko	4. 巻 -
2. 論文標題 Fake news and its electoral consequences: a survey experiment on Mexico	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 AI & SOCIETY	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00146-022-01541-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Song Jaehyun、Iida Takeshi、Takahashi Yuriko、Tovar Jesus	4. 巻 55
2. 論文標題 Buying Votes across Borders? A List Experiment on Mexican Immigrants in the United States	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Canadian Journal of Political Science	6. 最初と最後の頁 852-872
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0008423922000567	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Uji Azusa、Lim Sijeong、Song Jaehyun	4. 巻 -
2. 論文標題 From plastic to peace: Overcoming public antipathy through environmental cooperation	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Peace Research	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/00223433221123369	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Uji Azusa、Song Jaehyun、Dolsak Nives、Prakash Aseem	4. 巻 18
2. 論文標題 Pursuing decarbonization along with national security: Assessing public support for the Thacker Pass lithium mine	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0280720
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0280720	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Beiser-McGrath Liam F., Bernauer Thomas, Song Jaehyun, Uji Azusa	4. 巻 166
2. 論文標題 Understanding public support for domestic contributions to global collective goods	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Climatic Change	6. 最初と最後の頁 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10584-021-03137-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kobayashi Tetsuro, Song Jaehyun, Chan Polly	4. 巻 22
2. 論文標題 Does repression undermine opposition demands? The case of the Hong Kong National Security Law	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Political Science	6. 最初と最後の頁 268 ~ 286
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1468109921000256	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Uji Azusa, Song Jaehyun, Dolsak Nives, Prakash Aseem	4. 巻 16
2. 論文標題 Public support for climate adaptation aid and migrants: a conjoint experiment in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Environmental Research Letters	6. 最初と最後の頁 124073 ~ 124073
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1088/1748-9326/ac3b7b	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 宋財ヒョン	4. 巻 -
2. 論文標題 国家間の「助け合い」はいかに実現されるか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 自助・共助・公助の政治学	6. 最初と最後の頁 71-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Azusa Uji, Prakash Aseem, Jaehyun Song	4. 巻 148
2. 論文標題 Does the "NIMBY syndrome" undermine public support for nuclear power in Japan?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Energy Policy	6. 最初と最後の頁 111944 ~ 111944
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.enpol.2020.111944	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sohei Shigemura, Jaehyun Song, and Yuki Yanai	4. 巻 36(2)
2. 論文標題 Who Gets Close to Government Policies, and Who Steps Away?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 選挙研究	6. 最初と最後の頁 139-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Song Jaehyun・日野愛郎	4. 巻 36(1)
2. 論文標題 マルチレベル選挙における動員と投票疲れ: 亥年現象の解明に向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 選挙研究	6. 最初と最後の頁 23-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秦正樹・Song Jaehyun	4. 巻 2020(1)
2. 論文標題 争点を束ねれば「イデオロギー」になる?: サーベイ実験とテキスト分析の融合を通じて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 58-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 秦正樹・Song Jaehyun.	4. 巻 35(1)
2. 論文標題 オンライン・サーベイ実験の方法: 実践編	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 理論と方法	6. 最初と最後の頁 109-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Song Jaehyun・秦正樹	4. 巻 35(1)
2. 論文標題 オンライン・サーベイ実験の方法: 理論編	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 理論と方法	6. 最初と最後の頁 92-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計21件(うち招待講演 0件/うち国際学会 13件)

1. 発表者名 Azusa Uji, Jaehyun Song, Nives Dolsak, and Aseem Prakash
2. 発表標題 Supply Chain Dimensions of Decarbonization: A Survey Experiment to Assess Local Support for Thacker Pass Lithium Mining
3. 学会等名 Environmental Politics and Governance Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 磯崎典世・SONG Jaehyun
2. 発表標題 韓国における感情的分極化と投票参加
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 秦正樹・重村壮平・SONG Jaehyun
2. 発表標題 中点 (Mid-point) 選択のメカニズム：サーベイ実験による検証
3. 学会等名 公共選択学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Uji, Azusa and Jaehyun Song
2. 発表標題 Support for Climate Aid to and Accepting Climate Refugees from Asia and Africa? A survey experiment in Japan
3. 学会等名 Western Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 矢内勇生・Song Jaehyun
2. 発表標題 Integrating Research on Voting Behavior in Japan: A Meta-analysis
3. 学会等名 日本選挙学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Uji, Azusa, Aseem Prakash, Nives Dolsak, and Jaehyun Song
2. 発表標題 Supporting Climate Adaptation Overseas by Providing Climate Aid or Accepting Climate Refugees: A Conjoint experiment in Japan
3. 学会等名 Environmental Politics and Governance Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kobayashi, Tetsuro, Jaehyun Song, and Polly Chan
2. 発表標題 Does Repression Undermine Opposition Demands? The Case of the Hong Kong National Security Law
3. 学会等名 International Society of Political Psychology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Song Jaehyun
2. 発表標題 復活当選が投票率に与える影響
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kobayashi, Tetsuro, Jaehyun Song, and Polly Chan
2. 発表標題 Does Repression Undermine Opposition Demands? The Case of the Hong Kong National Security Law
3. 学会等名 American Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takahashi, Yuriko, Takeshi Iida, Jaehyun Song, and Jose Luis Estrada
2. 発表標題 Fake News and Its Electoral Consequence: A Survey Experiment on Mexico
3. 学会等名 American Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Woo, Yujin and Jaehyun Song
2. 発表標題 Public Perception of Migrants: Impact of Multicultural Policy in Japan and Korea
3. 学会等名 American Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 重村壮平・品田裕・宋財ヒョン
2. 発表標題 選挙ポスターは投票参加を促すか：2021年うるま市長選の事例から
3. 学会等名 東アジア日本研究者協議会国際学術大会 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tetsuro Kobayashi, Jaehyun Song, and Polly Chan
2. 発表標題 Does Repression Undermine Opposition Demands? The Case of Hong Kong National Security Law
3. 学会等名 V-Dem East Asia Regional Center Virtual Workshop: Workshop on Contentious Politics in Asia (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Liam F. Beiser-McGrath, Thomas Bernauer, Jaehyun Song, and Azusa Uji
2. 発表標題 The Effect of Reciprocity on Support for Enacting More Stringent Carbon Taxes
3. 学会等名 American Political Science Association 2020 Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Azusa Uji, Liam F. Beiser-McGrath, Thomas Bernauer, and Jaehyun Song
2. 発表標題 How to Design a Politically Feasible and Effective Carbon Tax? Results from a Choice Experiment in Japan
3. 学会等名 The 6th Annual Conference of Environmental Politics and Governance (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 SONG Jaehyun・日野愛郎
2. 発表標題 マルチレベル選挙における動員と投票疲れ：亥年現象の解明に向けて
3. 学会等名 日本選挙学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 秦正樹・SONG Jaehyun
2. 発表標題 「清き一票」は重すぎる?—フィールド実験を通じた啓発効果の検証—
3. 学会等名 日本選挙学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 矢内勇生・SONG Jaehyun
2. 発表標題 定量的選挙研究における結果の解釈をめぐる問題
3. 学会等名 日本選挙学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takeshi Iida, Jaehyun Song, Yuriko Takahashi and Jesus Tovar
2. 発表標題 Buying Votes across Borders? A Survey Experiment on Mexican Immigrants in the US
3. 学会等名 American Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秦正樹・SONG Jaehyun
2. 発表標題 争点を束ねれば「イデオロギー」になる? : サーベイ実験とテキスト分析の融合を 通じて
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yujin Woo and Jaehyun Song
2. 発表標題 Public Perception toward Migrants: Impact of Multicultural Policies in Japan and South Korea
3. 学会等名 Southern Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 豊田 秀樹、武藤 拓之、久保 沙織、岡 律子、秋山 隆、伊東 宏樹、伊藤 瑛志、松木 祐馬、坂本 次郎、山森 光陽、宋 財ヒョン、矢内 勇生、土田 尚弘、馬 景昊、永野 駿太、五島 光、松浦 拓也、小野 滋、登藤 直弥、梅垣 佑介、山根 嵩史、山田 剛史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 240
3. 書名 たのしいベイズモデリング2	

〔産業財産権〕

〔その他〕

争点空間の歪みと有権者の選択  
<https://www.waseda.jp/inst/wias/news/2019/07/01/6032/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------